

武道の精神で練磨する 強靱な心身と固いきぎずな

「武道の精神である精神統一や礼儀作法を重んじながら、同じ志を持つ仲間と、武道を通じて結ぶきぎずなを大事にしています」と話すのは、「甲佐町銃剣道クラブ」代表の興野稔さん（芝原区）。



甲佐町銃剣道クラブ
Kosamachi Jukendo club

甲佐町銃剣道クラブ / 平成4年に発足。3選手が出場した郡民体育祭および県銃剣道優勝大会で優勝。全九州銃剣道大会の出場権を獲得した。

〔銃剣道〕

銃剣道は日本古来の武道で、自衛隊で盛んに訓練されている戦技の1つ。剣道の防具に左胸に特有の「肩」をつけ、木銃で相手の左胸を狙う。平成4年に発足し、現役までは元自衛官の5人で活動。

甲佐中学校の甲心館で練磨している。興野さんと芦塚智明さん（西寒野区）、山本祐司さん（上揚区）の3選手は、7月の郡民体育祭で優勝。また、11月の県銃剣道優勝大会に「上益城」チームとして出場し、優勝。2月に宮崎県で行われる全九州銃剣道大会の出場権を獲得した。練習では、基本から応用動作、試合形式までを行い、交

代で絶えず気合の入った掛け声と激しい動きが続く。3人の平均年齢は62歳。興野さんは「還暦を過ぎ、けがをしないように、無理をしないように」と笑みを浮かべるも、「銃剣道は強靱な体力を要する。基礎体力がないとできません」と日ごろの練成を語る。3人の研ぎ澄まされた動作は、年齢を感じさせず、力強い。「動きながら突く間合いを見計らうが、相手も狙っているためなかなか決まらず、熟練した技が必要。自衛官が1〜2年毎日訓練しないと、試合にも立てません」と銃剣道の難しさを語る興野さん。若い頃から武道を好む山本さんは「試合場に立つ時は、勝つしかないという気持ちで臨みます」と言い、芦塚さんは「道場に一歩足を踏み入れると、気持ちが入ります」と言う通り、強い精神同士がぶつかる競技。反面、練習が終わると全員が爽快な笑顔を見せ、固いきぎずなが感じ取れる。全九州大会では、1本でも多く決めるという心意気で、上位入賞を狙う。

広報 こうさ

2018年（平成30年）2月号
通巻583号